

スーパーコンピュータシステムにおけるラックデザインの公募について

木越 信一郎¹⁾,伊達 進²⁾

1) 大阪大学情報推進部情報基盤課

2) 大阪大学サイバーメディアセンター

kigoshi@cmc.osaka-u.ac.jp

about rack design contest for supercomputing system

Shinichiro Kigoshi¹⁾,Susumu Date²⁾

1) Department of Information and Communications Technology Services, Osaka Univ.

2) Cybermedia Center , Osaka Univ.

概要

大阪大学サイバーメディアセンターでは2017年12月より新たなスーパーコンピュータシステムである全国共同利用大規模並列計算システムの運用を開始した。本センターのスーパーコンピュータシステムは従来からハードウェアの型番等から名称を決めていたが、新たなスーパーコンピュータシステムでは愛称やラックのデザインを決めて親しみの持てるものを目指した。本稿ではその背景についてまとめる。

1 はじめに

大阪大学サイバーメディアセンターでは2017年12月より新たなスーパーコンピュータシステムの提供を開始した[1]。このスーパーコンピュータシステムは政府調達の際の名称としては「全国共同利用大規模並列計算システム」と呼称していた。しかし実際に入札が終わり、システム導入へと進めていくにあたり、スーパーコンピュータシステムに愛称をつけ、外観に公募したデザインを施すことにより、利用者に親しみの持たれるスーパーコンピュータシステムを目指すことになり、構築や導入の作業と並行して公募や広報の活動を行うことになった。しかし、本センターでは広報専門の部署がなく、実態として調達や導入に関わった教職員が兼務して進めていくことになった。本稿では愛称やデザインの公募のプロセスがどのように進んでいったかをまとめ、同じような業務に携わる際の参考になればとおもう。

2 愛称について

本センターで導入されたスーパーコンピュータシステムの過去の名称は、基本的にスーパーコンピュータの型番等から採用されたものであった。新たに導入するスーパーコンピュータシステムでは愛称を決めるにあたって内部関係者で議論し、愛称を公募するかを検討したが、既にスーパーコ

ンピュータシステムの落札業者も決定しており、愛称を公募するとシステムの設計時にホスト名などの重要な決定が公募終了まで決まらず、運用開始日を守るために愛称の公募は現実的ではないと判断した。このため既に利用者アンケートで仮称として名前が出ていたOCTOPUSを愛称とすることを内部で決定し、次いでOCTOPUSはOsaka university Cybermedia cenTer Over-Petascale Universal Supercomputerの略称であることを決定した。

3 デザインの公募について

OCTOPUSのサーバラックにはラックの前面にデザインを施すことが可能であることが提案されていた(図1)。しかし、イラスト制作をデザイナーに依頼する費用に関しては調達費用の中に含まれていなかったため、本センター側で画像データを用意する必要に迫られた。



図1 施工前のラック

3.1 公募方法の方向性について

イラストの画像データ作成にあたっては、本センターでデザインを作成できる教職員がいなかったため、イラストレーターを探しデザインを伝えて制作するか、イラストを公募する必要性が生じた。イラストレーターを探す方法やデザインの打ち合わせにとられる時間も未知数だったため、こちらからあらかじめコンセプトとなるキーワード（大阪、皆に愛される、最先端の科学研究、スーパーコンピュータ）を提示し、イラストを公募することにした。公募の呼びかけ対象としては、

- ・ 本学の教職員
- ・ 本学の学生
- ・ 本センターの計算機利用者
- ・ 一般の方

として周知を進めていくことにした。

3.2 公募の方法について

公募の周知方法としては、コンテスト名称を「OCTOPUS ラックデザインコンテスト」と称して、本学の教職員に関してはセンター長名でデザイン募集の依頼文書を各部局の総務係を通じて周知した。本学の学生に関しては、学務情報システムの掲示板を活用して周知した。一般向けの公募に関しては、

- ・ 大学、専門学校、高校への公募のチラシ配布
- ・ タウン情報誌や自治体広報等のポスティングされる媒体への広告掲載
- ・ 公募ガイド等の専門誌への広告掲載

を当初考えていたが、いずれの方法も広告出稿から印刷し手に渡るまでの時間をとられ、ラックのデザイン施工に関する納期の関係もあり、オンライン媒体に絞った公募方法を模索した。

また、公募における最優秀作品には賞状、贈呈される副賞はノート PC とした。

3.3 オンライン媒体での公募について

オンライン媒体の公募情報サイトは、アートやデザインのクリエイターを志す人がコンテストを探すために使うサイトがあるという情報を本センターの教職員から得て、登竜門[2]という公募情報サイトを使うことにした。

4 公募の結果について

公募情報サイトはあくまで公募案内を掲載するだけであるため、本センターで別途作品受付用の Web ページを用意する必要があった。今回は期間も短いことから、メールの添付ファイルを用いてデータを提出させる方式で公募を行った。結果として公募期間中に 16 名 26 作品の応募があった。

4.1 最優秀作品の選考方法について

応募作品の選考に関しては、選考委員（本学関係者、スーパーコンピュータシステムを落札した日本電気株式会社関係者）が応募作品それぞれを採点し、合計得点が最も高かった作品を最優秀作品として決定することにした。その結果、図 2 の宮本要子さんの作品が最優秀作品となり、作品を元にスーパーコンピュータシステムのサーバラックにデザインを施した（図 3）。

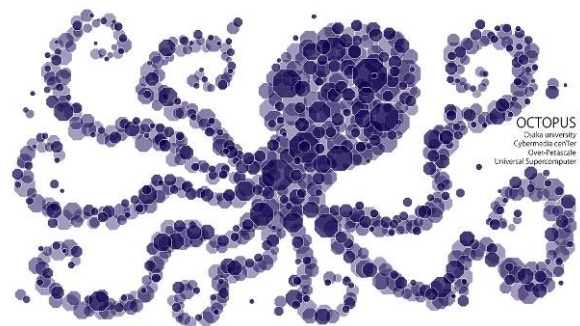


図2 最優秀作品のイラスト

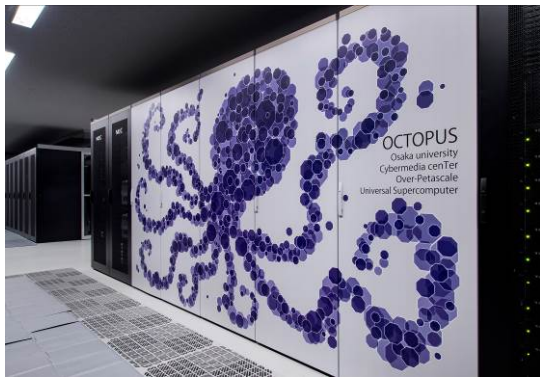


図3 施工後のサーバラック

参考文献

- [1] 伊達進,木越信一郎、全国共同利用大規模並列計算システム調達の背景、大学推進 ICT 推進協議会 2017 年度年次大会、2017 年 12 月.
- [2] <https://compe.japandesign.ne.jp> .

4.2 表彰式

ラックデザインコンテストに関しては賞状や副賞の授与を行うため表彰式を開催し、最優秀賞の受賞者の方をお招きすることにし、本センター内で関係者を集め盛大に行った(図4)。



図4 表彰式の様子

5 まとめ

本稿ではスーパーコンピュータシステムのラックにデザインを施す際にどのような業務が行われたかを記した。スーパーコンピュータシステムは落札が決定しない限り納品されるラックが定まらず、どのようなデザインを施工できるか判明しない。また運転開始や学内イベントまでの限られた時間内でデザインの公募を進める必要があり、タイトなスケジュールで業務を進行する必要があった。今回はスーパーコンピュータシステムの愛称に関しては公募を行わなかったが、愛称含めて公募をする場合は、さらにスケジュールに余裕をもって綿密に計画を立て進行していく必要がある。